

2026 年 10 月 16 日

各 位

会 社 名	ポ ー ル ト ウ ウ イ ン ホ ー ル デ ィ ン グ ス 株 式 会 社
代 表 者 名	代 表 取 締 役 社 長 橘 鉄 平 (コード番号：3657 東証プライム)
問 合 せ 先	取 締 役 C F O 山 内 城 治 (Email : ir@ptw.inc)

会社説明会に寄せられたご質問（2026 年 10 月 14 日開催） 及びエコノミスト エミン・ユルマズ氏との対談動画の公開について

当社は、2026 年 10 月 14 日に「個人投資家向け会社説明会」を開催いたしました。この度、アーカイブ動画及び書き起こし記事、みなさまより頂戴したご質問とその回答について公表いたしました。また、著名なエコノミストであるエミン・ユルマズ氏と当社取締役 CFO の山内城治による対談が公開されましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

<説明会概要>

開 催 日 時 2026 年 10 月 14 日（水） 18 時 30 分～19 時 30 分

開 催 方 法 オンライン（Zoom・YouTube） ライブ配信

当社登壇者 取締役 CFO 山内 城治

アーカイブ <https://www.youtube.com/watch?v=KWKMUCw5CQ>

IRTV Live 生配信 IR セミナー

<対談動画>



前 編 【創業 30 年超の専門性】 ゲームデバッグの参入障壁とは？

“ヒットに左右されない”インフラ型ビジネスをエミン氏が深掘り

<URL><https://www.youtube.com/watch?v=1VN9Lfnvvp4> <再生時間>14 分 11 秒

後 編 【黒字転換へ】 Tech 分野が成長エンジンに

構造改革の中身と再成長シナリオにエミン氏が迫る

<URL>https://www.youtube.com/watch?v=00_Nfo5aomg <再生時間>13 分 16 秒

当社では、今後も定期的に説明会等を開催し、事業内容や企業価値に対するご理解を一層深めていただけるよう努めてまいります。

以 上

会社説明会に寄せられたご質問について（2026 年 10 月 14 日開催）

ご質問と回答は、読みやすさを重視して一部編集しております。
配信時の表現を可能な限り残しておりますので、ご了承ください。



**Q1：2Q 決算で、事業撤退や構造改革が実を結び、上期営業利益が予想を大きく上回る大幅黒字化達成はお見事です。
順調な進捗に見えますが、今回通期予想を据え置いた背景と、下期に向けた手応えやリスク要因を教えてください。**

ご評価いただいたとおり、上期は順調に進捗してきたと考えております。上期業績は想定を上回る進捗となり、営業利益も大幅な黒字化を達成いたしました。一方で、通期業績予想については現時点で上方修正を行わず据え置いております。

その理由として、当初から下期の業績計画は一定程度チャレンジングな前提を織り込んで策定しており、上期の上振れは下期に向けた貯金ができたと認識しております。その結果、通期業績予想の達成可能性は高まっておりますが、まずは公表した業績予想を着実に達成することを優先したいと考えております。また、過去に業績予想の下方修正が続いた経緯も踏まえ、市場との信頼関係を重視し、慎重な姿勢を取っております。

リスク要因につきましては、国内事業は比較的に見通しが立てやすい状況にありますが、海外事業には一定の不確実性が存在しております。海外のゲーム業界では M&A や事業再編、人員削減等が頻繁に発生しており、顧客企業の方針変更によって外注需要が変動する可能性もあると認識しております。

Q2：業績の回復で増配や株主優待など還元への拡充は検討されていますでしょうか？

株主還元につきましては、当社は DOE3% 下限及び総還元性向 30% を基本方針としております。しかしながら、現在は再成長フェーズへの移行段階であり、利益水準はまだ本来の水準まで回復しておりません。そのため、現状でも実質的には高い配当性向となっており、安定的な累進配当を継続していく観点では、直ちに増配を実施する状況にはないと考えております。

一方で、今後利益成長が進み、収益基盤がより安定したものとなれば、当社の還元方針に基づき増配を検討する余地は十分にあると考えております。また、株主優待制度につきましても、長期保有株主への還元や企業価値向上の観点から検討対象の一つではありますが、現時点で具体的にお伝えできる内容はございません。

Q3：AI デバッグツールの実用化による利益率向上への期待値と中東など海外市場での成長スピード感を教えてください！

<AI デバッグツール> 今後の収益性向上に寄与する可能性が高いと考えております。従来のデバッグ事業は人員投入を前提とした労働集約型の側面が強くありましたが、AI や自動化ツールを活用することで、従来よりも利益率の高いサービス提供が可能になると見込んでおります。その結果、人月型サービスだけではなく新たな売上ポートフォリオの構築につながる可能性があり、中長期的な収益性改善を期待しております。

<中東展開> 非常に大きな成長機会であると考えております。すでに現地企業との覚書締結を進めている他、追加の提携先についても検討を進めております。当社としては、中東各国が国家レベルでゲーム産業の育成を進める中で、現地へ進出するゲーム開発会社のデバッグ需要を取り込み、業界のエコシステムを支える存在となることを目指しております。

Q4：AI 活用で開発速度が上がる一方、品質管理の難易度も増す中で、競合や顧客の内製化に対しヒトのノウハウがどう差別化になり続けるか伺いたいです。

AI の活用は今後さらに進展すると考えておりますが、当社は AI がヒトの役割を完全に代替するとは考えておりません。AI は非常に有用な技術である一方、誤った判断を行う可能性もあるため、最終的にはヒトが責任を持って確認する必要があると認識しております。

特にゲームデバッグの分野では、操作感や違和感の有無、使いやすさに加えて、「作品ごとの世界観に則った面白さ」という仕様書には表現しきれない、定性的な評価が重要となります。こうした領域は現時点でもヒトによる判断が不可欠であり、今後もその重要性は残ると考えております。当社としては、AI が品質の大部分を担い、その上でヒトが最終品質を保証するという役割を果たすことで、AI だけでは実現できない品質保証サービスを提供してまいります。

Q5：2027 年 1 月末までの（プライム市場における上場維持基準への適合に向けた）改善期間と開示されているが、現在の状況と今後の見通しを教えてください

プライム市場における上場維持基準への適合に向けて、今年 3 月に開示した改善計画では、「収益性の回復・再成長の実現」と「株式市場における信頼回復・認知向上」の 2 点を重点施策として掲げております。

収益性の面では、当初予想では第 2 四半期時点で赤字に留まると見込んでいた最終利益が黒字化しており、通期業績予想の達成に向けて着実に前進しております。

また、株式市場での認知向上については、今年 7 月末には株主数が 1 万人を超え、第 2 四半期（中間期）決算発表のあった 9 月の売買代金は 1 日当たり平均 1 億円を超える等、改善傾向にあります。加えて、個人投資家向け説明会や説明動画の配信等、IR 活動にも継続して取り組んでおり、これらの成果が徐々に現れてきているものと考えております。

引き続き、業績の回復と企業価値向上に努めることで、改善計画の達成を目指してまいります。

以 上